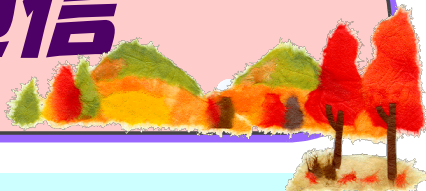


# ケロちゃん通信

2018年 10月 第40号



ながおか医療生協  
あたごこどもクリニック

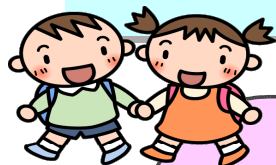
〒940-0038 長岡市琴平1丁目2-1

電話番号 0258-36-5810

<http://www.nagaoka-iryuu-seikyuu.jp/>

## 診療案内

- ☆ 今年の夏は、特別な感染症の流行もなく静かに過ぎましたが、RSウイルス感染症は、真夏からそのまま流行が続いている感です。イネ科の植物によるアレルギー性鼻炎や喘息も増えてきています。
- ☆ 本年度のインフルエンザワクチンは、メーカーからの情報があまりなく、最初は予約枠も抑え気味にしておりましたが、予定通りに開始できる見込みです。
- ☆ インフルエンザワクチン予約枠は、土曜午後、土曜午前、平日午後、平日午前の順に埋まってきている感です。もうすでに土曜日は予約がとりづらい状況です。希望の時間帯で予約に空きがない場合でも、平日午前はまだ余裕がありますのでご利用ください。Web予約で空きがなくても、電話で予約できる場合もありますのでご利用ください。
- ☆ これから、寒い日も増えて冬を迎える準備をする季節になります。体調を崩しやすいので、お気を付けください。小児科も繁忙期を迎えます。待ち時間短縮のため、できるだけご予約の上、来院していただけるようご協力お願いいたします。



### 10月の診療予定:

本間医師 (5日午前・午後 19日午前)

- 4日(木) 午前は、都合により休診にさせていただきます。
- 4日(木) 午後は、井埜医師の代診になります。
- 5日(金) は、本間医師の代診になります。

受付開始: 一般診療は午前8時30分、午後15時30分です。

### ☆一般診療

直接来院の場合は、診療時間内に受診してください。  
予約希望の場合は、前日0:00からスマホ、携帯、PCより予約システムでご予約ください。  
付き添いのお母さん等が体調不良の時も、お気軽にご相談ください。  
緊急の場合や、特別な相談がある場合には、まずお電話ください。

☆**予防接種、乳児健診**: スマホ、携帯、PCより予約システムでご予約ください(2ヶ月後の予約までできます)。今まで通り、窓口または電話でご予約もできます。

### ☆専門外来

①**発達外来(第2・4火 13:30~15:30、予約制)** 小児神経専門医による診療を行っています。言葉が遅い、コミュニケーションがとりづらい、落ち着きがない、かんしゃくを起こしやすい等の発達障害をご心配されている方、ひきつけ、チック、夜尿症などの発達や神経に関する心配がある方は、お気軽にご相談ください。

②**アレルギー外来(第1・3金 9:00~12:00 予約可)**

アレルギー専門医による診療を行っています。食物アレルギー、ぜんそく、アトピー性皮膚炎、花粉症等で心配がある方は、ご相談ください。

☆発達外来、アレルギー外来受診希望の場合には、電話で予約をお願いいたします。(Web予約はできません)

☆生協こどもクリニックとも協力して診察を行っています。病児保育室「すこやか」を利用希望の方は、当院を窓口にして利用することもできます。

# 突発性発疹

- 乳児期に発症する急性熱性発疹性疾患です。
- 6-12カ月の乳児に好発し、初めての発熱であることが多いと言われています。
- ヒトヘルペスウイルス6型または7型の初感染により発症します。母親などの既感染成人からの水平感染で、潜伏期は10-14日間です。
- 基本的には予後良好な疾患ですが、高熱が続き、けいれんを起こしやすいウイルスなので、注意は必要です。

## < 症状 >

- 急に高熱で発症し、39度以上になることが多いです。発熱は3-4日続くことが多く、初めての発熱であることが多いのでご家族は心配になりますが、解熱し発疹が出現すると一安心します。
- 病初期に口の奥に小さい口内疹（永山班）を認められます。せき、鼻水は伴わないことが多いですが、便が少し軟らかくなることが多いです。熱のわりには全身状態はあまり悪くないことが多いです。大泉門膨隆を伴うこともあり、髄膜炎などとの鑑別が必要な場合もあります。
- 高熱が解熱したのちに、体幹、顔面を中心に斑状の発疹が出現するのが特徴です。発疹は平坦かやや隆起性で、数日で消退し色素沈着は残しません。
- インフルエンザウイルスの次にけいれんを起こしやすいウイルスなので、けいれんには注意してください。
- ヒトヘルペスウイルス7型は2-4歳で初感染することが多く、2度目の突発性発疹として診断されることが多いと言われています。

## < 診断 >

- 発症年齢、臨床症状および解熱後の発疹で診断されます。
- 発疹が出るまで「突発性発疹かもしれない」としか言えません。
- 迅速検査はありません。診断のため、血清学的検査（IgM抗体、IgG抗体、ペア血清）、ウイルス学的検査（ウイルス分離、PCR法）などがあります。

## < 治療 >

- 対症療法のみです。高熱が続き、つらそうな時は、楽にしてあげる意味で解熱剤を処方します。
- 水分は、母乳、ミルク、果汁等、赤ちゃんが好むものを少量づつでも十分に与えてください。離乳食も食べれるなら制限はありません。
- 入浴も高熱でぐったりしないようであれば、軽く入れてもらってかまいません。
- けいれんを起こしやすいウイルスなので、熱性けいれんに注意してください。稀に急性脳炎・脳症を起こすことがあるので要注意です。けいれんを起こしたり、ぐったりして元気はないときはすぐに受診してください。

